

第1日目 2024年9月7日(土)

午後の部 14:00~16:30

開催校企画国際セッション

インターセクショナル리티の視点から家族と親密関係を再考する

Rethinking Families and Intimate Relationships from an Intersectional Perspective

オーガナイザー・司会 平森大規 (法政大学)

オーガナイザー コーダイアナ (法政大学)

佐伯英子 (法政大学)

討論者

新ヶ江章友 (大阪公立大学)

【企画趣旨】

近年、英語圏のみならず日本においてもインターセクショナル리티概念に対する関心が高まっており、書籍や論文、学会報告等も増えつつある。このような傾向は家族社会学の分野でもみられる一方で、日本家族社会学会の機関誌である『家族社会学研究』に掲載されている論文を見ても分かるように、日本の家族社会学においてインターセクショナル리티の視点が完全に「市民権」を得ているとは必ずしも言えない。そこで、本テーマセッションでは家族社会学の各領域においてインターセクショナル리티の視点を取り入れることがいかに学術的に、またより広く社会的に意義のある研究につながるかを示すような報告を集めた。第一報告(佐伯英子)では、パートナーと共に精子提供による不妊治療を選択し、家族形成を行うトランスジェンダー男性に対するインタビュー調査をもとに、不妊治療を選択するまでの経緯、治療中や育児における経験や、子に対する告知への考え方や実践に関する考察が示される。第二報告(申知燕)では、韓国出身のシスジェンダー・レズビアンバイセクシュアル女性の移住者にインタビュー調査を行った結果を元に、トランスナショナルな移住や家族形成は民族、性別、性的指向のみではなく様々な要素が互いに絡みながら発生する事象であることが示される。第三報告(金子初輝)では、日本におけるゲイ男性カップルにおける「レイスワーク」を分析することで、セクシュアリティと人種の交差性を明らかにする。第四報告(カンヘンリー)では、香港の若年ゲイ男性における階級化が家族形成や経済的实践といかに複雑な形で関わり合っているかを検討する。いずれの報告も家族社会学にインターセクショナル리티の視点を取り入れることの意義を示すものであり、セッション当日は討論者によるコメントやフロアのみならず、議論を通じて、インターセクショナル리티概念の持つ可能性と課題点について深めていきたい。